

# 戦前・戦後の香月泰男と松田正平

- I 1930s~1940s 2026年 4月18日(土) ~ 6月28日(日)
- II 1950s 2026年 11月17日(火) ~ 12月20日(日)
- III 1960s~1970s 2027年 1月8日(金) ~ 4月4日(日)

山陰生まれの香月泰男(1911-74)と、山陽で育った松田正平(1913-2004)。1学年違いの香月と松田は、太平洋戦争を挟む激動の時代に、ときに交わりながらも、それぞれの人生を映し出すかのように、まったく異なる作風を展開させました。2026年度は3回の展示で山口を代表する二人の洋画家の足跡を辿ります。



松田正平 《パラ》 1978年  
油彩/カンヴァス  
山口県立美術館蔵



香月泰男 《運ぶ人》 1960年  
油彩・方解末・木炭/カンヴァス  
山口県立美術館蔵

\*いずれの作品も  
2027年1月8日(金)~4月4日(日)に  
展示予定。

# こうせつ 江雪 一日本画の雪景色

2026年5月26日(火)~6月28日(日)

世界各地で雪は冬を象徴する風物です。あたり一面を白一色に覆う雪景色は静けさや厳しさ、詩情をたたえ、画家たちに様々な表現の可能性をもたらしてきました。本展では、特別展「スウェーデン絵画」の開催に合わせ、当館コレクションの日本画から雪をモチーフとした作品を紹介します。



森徹山 《雪景山水図》 1839年  
絹本着色  
山口県立美術館蔵

## 令和8年度 県立美術館メンバーズクラブ 山口県立美術館 4/13より会員募集!!

山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館では、両館で開催する展覧会等をおとして美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的として、2館共通のメンバーズクラブ会員の募集受付をスタートいたします。13年目となる本年も、皆さまのご入会をお待ちしております。

\*会員特典・入会方法などの詳細については、当館HPまたは会員募集チラシをご覧ください。 \*入会当日よりご利用いただけます。

**入会受付期間**

令和8年4月1日(水)~6月30日(火)

**有効期限**

令和8年4月1日(水)  
~令和9年3月31日(水)まで



# 2026 - 2027

schedule  
山口県立美術館 令和8年度展覧会スケジュール

月	コレクション展示			特別展示
4月	4/12(日)まで「2025年度コレクション展」			全館休館4/13(月)~4/17(金)
5月	4/18(土)~5/24(日) 生誕150年記念 松林桂月展	4/18(土)~6/28(日) 戦前・戦後の 香月泰男と 松田正平 I 1930s ~ 1940s	4/18(土)~5/24(日) 陳澄波 《東台湾臨海道路》 を見る・知る	<b>特別展</b> 4/28(火)~6/21(日) スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき
6月	5/26(火)~6/28(日) 江雪 一日本画の雪景色		5/26(火)~6/28(日) こどものせかい	全館休館6/29(月)~7/17(金)
7月	休室			
8月				<b>特別展</b> 7/18(土)~10/12(月・祝) 金曜ロードショーとジブリ展
9月				
10月				全館休館10/13(火)~11/16(月)
11月	11/17(火)~12/20(日) 雪舟と雲谷派	11/17(火)~12/20(日) 戦前・戦後の 香月泰男と松田正平 II 1950s	11/17(火)~12/20(日) 「もの」を撮る	11/26(木)~12/13(日) 第79回山口県美術展覧会
12月				全館休館12/21(月)~1/7(木)
1月	1/8(金)~2/7(日) 雲谷派の系譜	1/8(金)~4/4(日) 戦前・戦後の 香月泰男と 松田正平 III 1960s ~ 1970s	1/8(金)~4/4(日) 明治から 昭和初期まで の洋画 一山口ゆかりの 画家を中心に	1/21(木)~24(日) 第79回山口県学校美術展覧会 1/29(金)~31(日) 山口3大学合同卒業展
2月	2/9(火)~3/7(日) はじめての「中国画題」			<b>特別展</b> 2/9(火)~3/28(日) 超絶リアリズム絵画 ホキ美術館所蔵名品展
3月	3/9(火)~4/4(日) 防長の狩野派			

**Information**

- 休館日 月曜日  
\*祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。  
\*6月1日(月)、8月10日(月)、12月7日(月)、2027年3月1日(月)は開館。
- 開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)
- 料金 コレクション展:一般400(320)円 学生250(200)円  
\*18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方は無料。  
\*障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。  
\*令和8年(2026年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。  
\*特別展ほか、展覧会によって料金が異なります。



山口県立美術館の公式アカウントはこちらから



山口県立美術館  
Yamaguchi Prefectural Art Museum  
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1  
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790  
https://y-pam.jp

# 145

Contents

**コレクション展**

生誕150年記念 松林桂月展  
戦前・戦後の香月泰男と松田正平 I ~ III  
江雪一日本画の雪景色

**特別展**

スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき  
金曜ロードショーとジブリ展  
メンバーズクラブ会員募集  
年間スケジュール

# 天花

TENGE

Collection

# 生誕150年記念 松林桂月展

2026年4月18日(土)~5月24日(日)

表紙作品解説

松林桂月  
《雨後》  
1955年  
絹本墨画淡彩  
山口県立美術館蔵

雨が降った後の葡萄が見せるみずみずしい表情を写したこの作品で、作者の松林桂月(1876~1963)は画面の大部分を水墨によって描きながら、葡萄の実の表面のごく一部、ハイライトの部分だけにわずかに白い絵具を加えています。それは、この絵を見る人の多くが見過してしまうかもしれない控え目な表現ですが、雨上がりのかすかな光をとらえて絶妙です。葡萄の実があまり大きくないこと、また実の付き方がやや疎らなことから、この葡萄はおそらく栽培品種ではなく、野ブドウではないかと思われます。野ブドウの実本来、白色かうすいみどり色ですが、ブドウタマミバエのような寄生昆虫が卵を産み付け、その孵化した幼虫が葡萄の実を食べることによって、翡翠・空色・群青・黄緑・赤紫といった、まるで宝石箱の中身のような色とりどりの美しい色を発現するのだそうです。この絵の葡萄の実はどんな色なのでしょう。

作者の松林桂月は萩に生まれ、明治・大正・昭和の三代にわたって活躍して南画の復興に尽くし、文化勲章を受章した近代日本画の大家です。

(山口県立美術館 副館長 荏開津通彦)



松林桂月 《雨後》 1955年 絹本墨画淡彩 山口県立美術館蔵

特別展

# スウェーデン絵画

## 北欧の光、日常のかがやき

2026年4月28日(火) - 6月21日(日) 【休館日】月曜日  
※ただし5月4日、6月1日は開館

【観覧料】一般1,700(1,500)円/シニア・学生1,500(1,300)円/18歳以下無料

※シニアは70歳以上の方、( )内は前売り、オンラインチケットおよび20名以上の団体料金。  
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。  
※前売り券は、ローソンまたはミニストップ店内のLoppi(Lコード: 63278)、セブンチケット(セブンコード: 114-074)でお求めください。オンラインチケットの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

【主催】山口県立美術館、NHK山口放送局、NHKエンタープライズ中国、毎日新聞社、tysテレビ山口  
【協賛】DNP大日本印刷 【後援】スウェーデン大使館  
【特別協力】スウェーデン国立美術館  
【協力】全日本空輸、ルフトハンザ カーゴ AG 【企画協力】S2  
【山口会場特別協力】エフエム山口 【山口会場特別協賛】田中建設株式会社



本展は、「日本・スウェーデン文化科学交流年2026/The Swedish Embassy Year of Cultural and Scientific Cooperation 2026」の事業です。



カール・ラーション 《カードゲームの支度》1901年 油彩、カンヴァス  
Photo: Anna Danielsson / Nationalmuseum

作品はすべてスウェーデン国立美術館蔵

白樺の森と澄んだ湖、黄昏時の淡い光。豊かな自然に抱かれた北欧の国、スウェーデン。この国の人々は、シンプルなデザインで室内を整え、甘いお菓子やコーヒーとともにゆったりと時間を過ごします。そうした丁寧な暮らしのなかで、日々のささやかな喜び、日常のかがやきが慈しまれてきました。

今日、私たちが思い描く、こうしたスウェーデンのイメージは、19世紀後半から20世紀にかけてかたちづくられたものです。のちにスウェーデン美術の黄金期と呼ばれるこの時代、主にフランスで絵を学んだスウェーデンの画家たちは、「スウェーデンらしい」画題を求めて祖国へ戻ります。故郷に帰った彼らは、北欧の幻想的な光を受けて輝く自然、簡素で清潔感のある室内で過ごすあたたかな日々の暮らしを、親密で情感をたたえた表現で描き出していきました。

本展は、スウェーデン国立美術館の全面協力のもと、近年世界的に注目を集めるスウェーデン近代絵画の精華を体系的にご紹介する、日本初の展覧会です。スウェーデンの国民的画家カール・ラーションや、文筆家としても知られるアウグスト・ストリンドバリによる絵画など、魅力的で多彩な作品を通して、自然と暮らしのなかにある美を大切にスウェーデンならではの感性に迫ります。



グスタフ・フィエスタード 《冬の月明かり》1895年 油彩、カンヴァス  
Photo: Hans Thorwid / Nationalmuseum



アウグスト・ストリンドバリ 《ワンダーランド》1894年 油彩、厚紙  
Photo: Erik Cornelius / Nationalmuseum



アンデシュ・ゾーン 《編物をするダーラナの少女コール=マルギット》1901年 油彩、カンヴァス  
Photo: Cecilia Heisser / Nationalmuseum



オーロフ・アルボレーリウス 《ヴェストマンランド地方、エンゲルスバリの湖畔の眺め》1893年 油彩、カンヴァス  
Photo: Cecilia Heisser / Nationalmuseum

Masters of Swedish Painting  
from Nationalmuseum, Stockholm

特別展

# 金曜ロードショーとジブリ展



2026年7月18日(土) - 10月12日(月・祝)

【休館日】月曜日 ※ただし7月20日、8月10日、9月21日、10月12日は開館  
【開館時間】9:00 ~ 17:00 (入場は16:00まで) ※8月は18:00まで開館延長 (入場は17:00まで)

【観覧料】一般1,900円/中高生1,500円/小学生1,000円

※未就学児および特別支援学校に在籍の方等は無料。  
※障害者手帳等をお持ちの方とその介護の方1名は無料。

【主催】山口県立美術館、KRY山口放送、読売新聞社 【共催】日本テレビ  
【特別協賛】au (KDDI株式会社) 【協賛】TOPPAN クロレ  
【展示協力】ア・ファクトリー 【特別協力】スタジオジブリ

本展覧会は  
事前予約制  
(日時指定)  
です。

これまで200回以上にわたってスタジオジブリ作品を放送してきた「金曜ロードショー」。番組が始まった1985年はスタジオジブリが「スタジオ開き」をした年であり、「風の谷のナウシカ」が、日本テレビの特別番組として、初めてテレビ放映された年でもありました。現在も続くこの番組の歴史は、まさしくスタジオジブリが人気を確立し、作品の評価を不動のものとしていく足跡とともにあったといえるでしょう。

本展では、その1985年を起点に、「風の谷のナウシカ」から「アーヤと魔女」まで、それぞれの絵コンテの一部を展示。映画の公開年や「金曜ロードショー」で初放送された年がどんな時代だったのか、各時代の記憶と記録を通じてその世相を浮かび上がらせながら、スタジオジブリ作品の魅力にせまります。



造形作家・竹谷隆之さんらの造形物をもとに「風の谷のナウシカ」の「腐海」を表現。全長約8mの王蟲が圧巻のクオリティーで登場。



名シーンを絵コンテで振り返る! ジブリ作品の「設計図」に迫ろう。



幻想的な雰囲気を演出する「ジブリの幻燈楼」。作品の世界観を音と光に包まれながら体感しよう。



「千と千尋の神隠し」に登場する油屋の模型。夜になると不思議なお客様が訪れて…?



ポスターの主役はあなた! 主人公になった気分で記念撮影。 ※他会場の様子

© Studio Ghibli